

小1

じゅんじょよくかこう

研究主題 「確かな国語力を育むための国語教育の在り方」

- 経験したことを、順序に沿って文章に書くことを通して、表現力を高める指導法の研究 -
日立市立中小路小学校 川崎真由美

1 主題設定の理由

(1) 学習指導要領から

中教審における改善の基本方針の中に、「特に、言葉を通して的確に理解し、理論的に思考し表現する能力、互いの立場や考えを尊重して言葉で伝え合う能力を育成すること」とあり、これを受けて改善の具体事項として、「日常生活に必要とされる対話、記録、報告、要約、説明、感想などの言語事項を行う能力を確実に身につけることができるよう、継続的に指導する」とある。つまり、理解し、思考し、表現する能力、伝え合う能力を育成するために、日常生活に必要な言語事項を行う能力を身につけさせる指導が必要となる。

また、1学年及び2学年の目標として、「B書くこと」では、「経験したことや想像したことなどについて、順序を整理し、簡単な構成を考えて文や文章を書く能力を身に付けさせるとともに、進んで書こうとする態度を育てる。」とある。そのための内容として、指導事項「A経験したことや想像したことなどの中から書くことを決め、書こうとする題材に必要な事柄を集めること。」とあり、書くために必要な事柄を思い出したり、想像したりして、ノートやカードにメモを取っていくことなどを求めている。児童は、経験や生活、あるいは興味・関心に違いがある。そのような違いを考慮しながら、一人一人の気持ちや経験を大切に、楽しんで書くようにすることを重視する。「自分の考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。」では、文章に「始め—中—終わり」などの構成がある事を意識できるようにすることが大切である。「ウ語と語や文と文の続き方に注意しながら、つながりのある文や文章をかくこと。」では、前後の語句や文のつながりを大切に、一文の意味が明確になるように語と語との続き方を考えさせることを重視するとともに、離れたところにある語と語や文と文とのつながりについても考えさせるようにする。

(2) 児童の実態から

「わたしのはっけん」の教材で、学校や家など身近なところで発見したことをカードに書いた。27人中21人は進んで大きさや色、触った感じやにおいなどを書けたが、6人は、個別に支援した。それをもとに作文に書いたときは、カードをもとにして進んで書けたのは14人、13人は、メモをもとにした作文の書き方が分からなくて、個別に支援した。その後、校外学習で発見したことを作文に書かせたときは、ほとんどの児童が発見したことを進んで発見カードや作文に書くことができたが、短い文章の児童が多く、表現力を高める指導が必要だと感じた。

毎週日記を宿題に出しているが、全員取り組み、自分なりに書く材料を見つけて書けるようになってきた。短い文しか書けなかったり、したことの順序が逆になっていたり、一文の長すぎる文になっていたり、主語がなかったりする児童もいる。また、文と文をつなげる言葉を使っている児童や、かぎ（「」）の使い方を理解して文章の中で使っている児童もほとんどいない。このような実態から、特に「ウ語と語や文と文の続き方に注意しながら、つながりのある文や文章をかくこと。」を身につけさせる必要がある。

そこで、経験したことを、順序よく文章に書くことを通して、表現力を高める指導法の研究という主題を設定した。

2 研究の仮説

- (1) 学校や家での楽しい経験を思い出し、色別のカードに書き、それを順序よく並べる活動を取り入れれば、自分のしたことやその時の様子を順序に沿って詳しく思い出すことが出来るであろう。
- (2) 教科書の文例を参考に文の構成を理解し、自分の書いたカードをもとに会話文や順序を表す言葉を補って文章を書く活動を行えば、表現力が高まるであろう。
- (3) 自分の書いた作文を読み返して良いところを見付けたり、友達の作品の良いところを見付けてお互いに伝え合ったりする活動を行えば、表現することの楽しさを感じ、表現する意欲が高まるであろう。

3 実践事例

(1) 単元名 じゅんじょよくかこう

(2) 目標

学校や家で経験したことを順序よく書く活動に、意欲的に取り組もうとしている。

(国語への関心・意欲・態度)

書くことに必要な事柄を、そのときの様子や気持ちに注意して思い出し、したことの順序に沿って、様子が分かるように、順序を表す言葉や会話を取り入れて書くことができる。

(書くこと)

主語と述語の関係に注意し、かぎ(「 」)の使い方を理解して文章を書くことができる。

(伝統的な言語文化と国語に関する指導事項)

(3) 単元について

教材観

本教材では、経験したことを報告する文章を書くという言語活動を通して、自分がしたことや思ったこと、周りの様子などを、時間的な順序に沿って書く力をつけることをねらいとしている。

自分が思ったこと、そのときの周りの様子など思い出したことを一つ一つカードに書き出し、それを出来事の順に並び替えてから、それらをつないで文章に書いていくという方法を取り入れている。こうすることで、無理なく事柄の順序を意識して書くことができる。また、カードに書いた事柄を言葉や文でつないで文章に書くことを通して、つながりのある文章を書く力をつけていくことができる。さらに、推敲の仕方、感想の伝え合い方などを学ぶことによって、より豊かな文章表現能力を身につけさせたい。

児童の実態

意識調査(1年1組27名 平成11月28日調べ)

国語の学習は好きですか	好き	85.2%
	どちらかといえば好き	11.0%
	どちらかといえば嫌い	3.7%
	嫌い	0%
どのような学習が好きですか (複数回答)	文を書くこと	92.6%
	読書	70.4%
	音読	63.0%
	漢字・平仮名の練習	51.9%
	話す・聞くこと	59.3%

意識調査から、国語の学習を好きな児童が多いことが分かる。一番好きな学習は文を書くことである。既習の「わたしのはっけん」の学習で、文を書くのが楽しかったと思われる。実際に見て、さわって、においや音など気付いたことを書くことができるようになってきた。しかし、経験したことを思い出して書くことはまだあまり良くできない。

指導観

単元の導入では、学校や家で経験した楽しいこと、友達に知らせたいことで、その時の様子をなるべく多く思い出せる題材を選んで順序よく文章に書くことを知らせ、学習の見通しを立てて、主体的に活動できるようにする。「したこと」「おもったこと」「まわりのようす」とそれぞれ異なる色のカードを使って、1枚のカードに一つの事柄を書くようにし、並べ替えて、組み立てを考えさせる。カードを貼ったノートをもとに、思い出したことを付け加えたり、順序を表す言葉や文と文とをつなぐ言葉などを用いたりして、順序よく文章を書かせる。これは、言語活動例「イ経験したことを報告する文章や観察したこと記録する文章などを書くこと」を踏まえている。〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕(1)(エ)長音、拗音、促音、撥音などの表記ができ、助詞の「は」「へ」及び「を」を文の中で正しく使うこと。(オ)句読点の打ち方、かぎ(「 」)の使い方を理解して文章の中で使うこと。(カ)主語と述語の関係にも注意すること。(キ)敬体で書かれた文章になれること。』とも関連させる。

自分の文章を読み返す時には、文字を目で追いながらゆっくり読ませるようにし、間違えたところを直すときに、消しゴムは使わずに赤鉛筆で書き加えたり線を引いて文字を削ったりす

る方法を教え、丁寧に読み返すように意識させる。また、間違ったところだけでなく、良いと思ったところをチェックするように促し、丁寧に読み返せるように意識させる。

友達と文章を読み合う活動では、具体的な観点を示したり、良いところに気付いた児童の発表を参考にさせたりしながら、3～4人グループで文章を読み合わせ、良く書けているところや共感できるところを見つけて発表させたい。学び合いや発表の場を十分確保することで、さまざまな見方や考え方を育て、表現力を高める学習活動の展開を図る。

(4) 指導と評価の計画(8時間取り扱い)

第1次 学習の見通しを持ち、書きたい出来事を考える・・・・・・・・・・・・・1時間
第2次 教科書の例文をもとに、文章の書き方を知り、順序を考えて、文章を書く・・・・・・・・6時間

時	学習活動・内容	評価の観点【評価方法】	B 基準に達しない児童への手立て
1	・書く材料を集めたり、組み立てを考えたりする方法を理解する。 ・モデルのカードを並べ替え、番号を付ける。	・文例を読んで、どのような順序で書かれているかをとらえ、文章の書き方について理解している。 目標 【発言・ノート】	・友達の発言を良く聞くこと、黒板をよく見ることを助言する。 ・並べ方や番号などをペアで教え合う。
2	・書く材料を集めたり、組み立てを考えたりする方法を理解する。 ・文例を視写し、文の書き方を練習する。	・文例を読んで、どのような順序で書かれているかをとらえ、文章の書き方について理解している。 目標 【発言・ノート】	・横にいて、指でノートを指して、書くことを言って教える。
3	・書きたい出来事について、したことや思ったことなどをカードに書き出す。 ・カードを順に並べ、会話や思ったことなどを付け加える。	・書きたい出来事について、そのときしたことや気持ち、周りの様子などを思い出して書き出し、文章の組み立てを考えている。 目標 【発言・カード・行動観察・ノート】	・書くことの例を教え、てまねさせる。 ・順序に沿って並べる時に、ペアで教え合う。
4 5 本 時	・出来事に順序に沿って文章を書く。 ・文例を再度見、全体の組み立てを理解する。 ・カードを貼ったノートを見ながら文章を書く。	・順序を表す言葉や、文と文をつなぐ言葉などを用いて、順序よく文章を書いている。 目標 【作文】	・横にいて、指でノートを指して、書くことを言って教える。
6	・書いた文章を読み返し、修正する。	・自分が書いた文章を読み返し、良いところや間違ったところに気づいて、文章を直している。 目標 【文章】	・ペアで教え合う。

第3次 文章を読み合い、感想を伝え合う・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1時間

(5) 本時の指導

目標

- ・ 文の構成を理解し、したことや思ったことなどを書いたカードをもとにして、順序や時を表す言葉を補いながら、出来事の順序に沿って文章を書くことができる。

本時の研究テーマの具現化に向けて

本時は、まず、教科書の文例を再度見て、文例の下に注釈に着目させ、初めにどんなことをしたのかという出来事の概要を書いてから、出来事を順序に沿って詳しく書き、最後に思ったことを書くという全体の組み立てを理解させたい。また、順序や時を表す言葉をカードとカードの間に補いながら書くことを理解させ意識させて活動させたい。メモから文章へつなげていくことが出来るようになれば、経験したことだけでなく、想像したことも、観察したことも、スムーズに文章に表現する力がつくと考える。

準備・資料

文例，注釈，カード
展開

学習活動・内容	支援の手立てと評価（ 個への対応 評価）
1 学習課題をつかむ。 がっこうやいえでしたことを，カードをもとに，じゅんじょにそって，さく文にかこう。 2 教科書の文例を見て，作文の書き方を話し合う。 ・初め—どんなことをしたのかを短く書く。 ・中—カードをもとに，詳しく書く。 ・終わり—思ったこと ・順序や時を表す言葉を補って文章にする。 3 カードを貼ったノートを見ながら，文章を書く。 ・2マス空けて題を書く。 ・名前の位置も確認。 ・1マス空けて「初め」を書く。 ・「中」を詳しく順序に沿って書いていく。 ・「終わり」に思ったことを書く。 4 学習を振り返り，次時の学習について確かめる。	・前時に使った教科書の文例と注釈とカードを掲示して学習を振り返る。 ・前時にカードを貼ったノートを見て，文章に書く順序を確認させる。 教科書の文例，注釈，カードを，文の構成に注目して見直し，文の構成を理解させ，同じようにカードをもとに文章を書くことを知らせ，学習の見通しを持たせる。 ・「したこと」「おもったこと」「まわりのようす」を書いたカードの間に「はじめに」「それから」などの順序を表す言葉や「じゅんばんをまっているとき」などの時を表す言葉をノートに書かせ，文章に書くときに忘れずに補えるようにする。 ・順序を表す言葉の例と使う順や，時を表す言葉の例や使い方を板書し，机間指導してずつ確かめる。 ・原稿用紙の使い方を確認しながら題，名前，書き始めまでは一斉に書く。 ・机間指導し，題，名前，書き始め位置を確認する。 ・中の部分は，カードを貼ったノートを見ながら，文と文をつなげていくことを助言する。 ・会話文では，話したことをかぎ（「 」）で囲むこと，かぎ（「 」）の前と後は改行することなどを助言する。 集中できないA，Bには，横について声をかける。 速く書き終わった児童には，書いた文を読み返させる。 文の構成を理解し，したことや思ったことなどを書いたカードをもとにして，順序や時を表す言葉を補いながら，出来事の順序に沿って文章を書くことができたか。（作文） ・次時は，書いた文章を読み返し，良いところを見つれたり，間違ったところを修正したりすることを伝え，学習への意欲が高まるようにする。

（6）指導の実際

単元導入で文章に書きたいという意欲を高める

経験や生活，あるいは興味・関心の違いを考慮しながら，一人一人の気持ちや経験を大切に
して，楽しんで書くようにすることを重視した。導入では，まず，学校や家での生活を振り返り，
おもしろかったこと，楽しかったこと，うれしかったこと，驚いたことなど，最近の出来事
の中でいちばん印象に残っていることを自由に出し合わせた。思いついたことを気軽に話せ

るような雰囲気作りに心がけ、友達の話を書く中で、さらに経験を思い起こしたり、詳しく思い出したりして、書きたい内容を膨らませるようにさせた。そして、自分の経験の中で、文章に書きたい出来事の一つを選び、ノートに書かせることで、文章に書きたいという意欲を高めさせたいと考えた。書くことが苦手と言う児童も、興味・関心のある題材であれば、意欲が高まると考えた。

友達が遊びに来て一緒に遊んだこと、家族で買い物に行ったこと、家族で食事に行ったこと、学校で友達と遊んだことなどたくさん書きたいことが出た。次から次と出てきて、あっという間の1時間であった。ほとんどの児童が自分で書きたいことを決めることができた。考えつかなかった児童には、前の日の友遊タイム（昼休み）に縦割り班集団遊びをし、楽しく遊んでいたの、そのことを書くように助言した。

詳しく思い出せることでないと作文に書けないことを何度も確かめたが、書きたい出来事について、したことや思ったことなどをカードに書き出す時になって、詳しく思い出せない児童もいたの、少しでも思い出せるように個別に指導して書かせた。

カードにメモを取るによって書く材料を見付ける

「したこと」「おもったこと」「まわりのようす」を色別のカードに書くことで、3つの事柄を落とさずに書くことが出来ると考えた。また、出来事の順序を考えながら並べ替える活動の中で、詳しく思い出すことが出来ると考えた。カードなので、思い出したら付け加えたり、並べ替えたりすることが出来るし、色別なので、どこに付け加えたらいいかも分かりやすい。カードの間に順序や時を表す言葉を補えばいいので分かりやすいと考えた。（資料1）

カードに書き方についてよく理解した児童にとっては、詳しく思い出して書くことができたので良かった。しかし、「したこと」「おもったこと」「まわりのようす」に分けて書くことは少し難しい児童もいた。少し違うことが書いてあってもあまり気にしないようにして並べさせた。あまりに違う話題について書いてあったときには、書き直させたり、そのカードを省いたりして並べさせた。

書いた文章を読み返したり、友達と読み合ったりして、自己評価・相互評価する

児童は見直しが苦手である。自分が書いたものは思い込みで読んでしまうので、なかなか間違いに気づかない。テストの時も、何度見直しするように話してもミスに気づかない児童も多い。文章の間違えも、言われると分かるのだが自分で気づくことに慣れていない。そこで、少し時間を取って見直しさせたいと考え、時間を多めに取った。

消さないで、赤鉛筆で直す方法を教えた。早く終わった児童は、自分でひらがなを漢字に直したり、丸を付け忘れたのに気付いたりした児童もいたが、全然間違えに気付かなかったり、逆に、ひらがなでいいのにカタカナに直していたりといった感じで、繰り返し指導しなければ出来るようにならないと感じた。自分で直させた後、教師が赤ペンで見直した。（資料2）

次に、3～4人のグループでそれぞれの文章を読み合わせ、良いところを見つけてカードに書いて交流した。良いところを見つけて上手に褒めている児童もいたが、褒めているのではなく、読んだ感想や返事になってしまっている児童も多かったの、良いところを褒める観点として、様子がよく分かるように書けていること、思ったことが書いてあること、話したことが書いてあること、順序よく書けていることを提示した。また、字がきれいで読みやすいこと、点や丸が書いてあって読みやすいこと等についても褒めると良いことを助言したら、書くことができた。（資料3）

4 研究の結果

（1）仮説1について

黄色いカードに「したこと」赤いカードに「思ったこと」白いカードに「周りの様子」を書いていったので、よく思い出せた児童はたくさん書いて自分で順序よく並べることができた。難しく苦労しながら並べている児童には、助言しながら一緒に並べた。今までは、書きたいことを思いついた順に書いていたので、一度書いたことをもう一度並べ直すという意味を理解させるのが難しかった。文を書くのが嫌いにならないように、あまり厳しくせずに、出来る範囲で行った。

今まで、したことばかりを書いていた児童の作文は、したことの中に思ったことや周りの様子を入れることで、様子が良く伝わる文章になった。短い文章しか書けなかった児童も、カードを

並べることによって今までより詳しい文章が書けた。

(2) 仮説2について

文の初めの部分に「いつ」「何があった」「だれが」「何をした」といった概要を書くことをおしえた。次の段落で、したこと、思ったこと、周りの様子を順序良く書くことを教えた。そして最後に全体のまとめとして思ったことを書くことを教えた。また、文と文の間に「はじめに」「つぎに」などの言葉を入れることや、会話文を入れることを教えた。

学習後は、毎週書いている日記でも、この単元で学習した文の書き方と同じような構成で書いてきた児童が数名いた。また、同じような構成ではないけれど、今までより長く、分かりやすい文章が書けるようになった児童がたくさんいた。最初から最後まで一文で長々と書いていた児童が、いくつかの文に分けて書けるようになった。また、文と文の間に「はじめに」「つぎに」などの接続詞を入れている児童が増えた。会話文を入れている児童も増えた。

(3) 仮説3について

自分の書いた文章を読み返して、良いところを見つけられるようになった。宿題の日記を出すときに、「今日は長く書いてきたよ。」と言っている児童がいたので、自分で詳しく書けるようになったことに気付いていると思った。

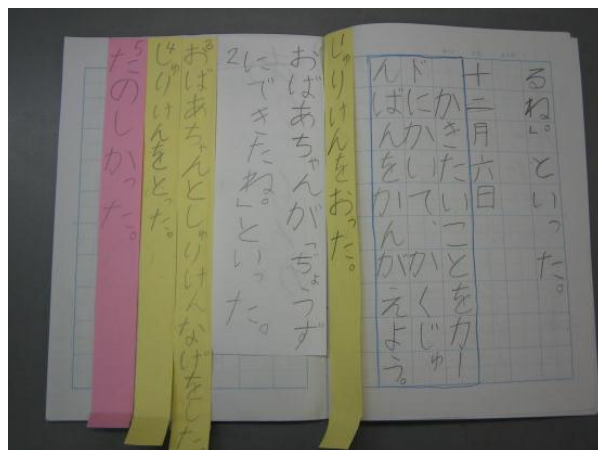
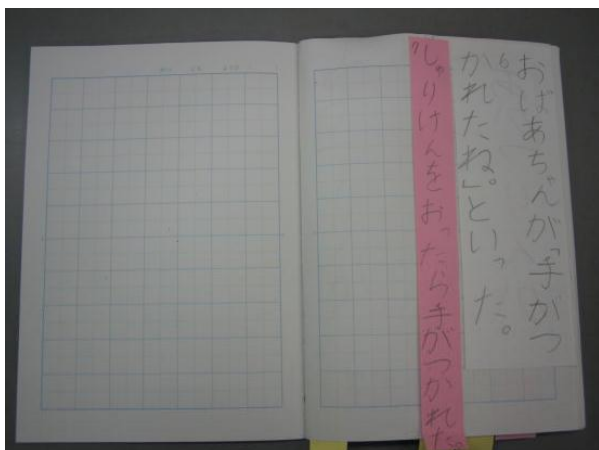
作文を友達と読み合い感想を伝え合う活動は、とても楽しかったようで、みんな意欲的に取り組んでいた。学習に集中できないAさんも、意欲的に取り組み、「字もきれいかいていますね。小さいつもちゃんとかいていますね。字もこくかいていますね。」と一生懸命コメントを書いていた。

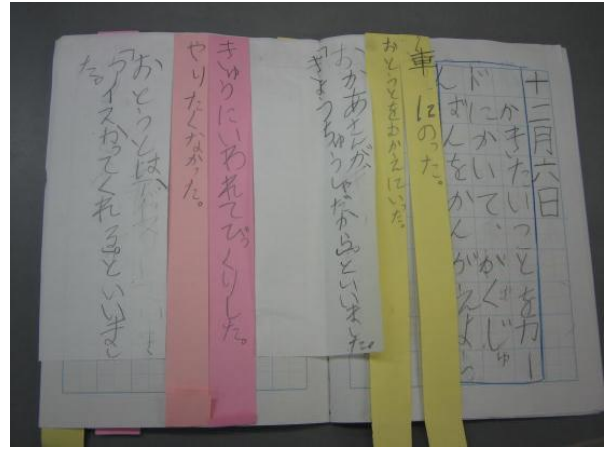
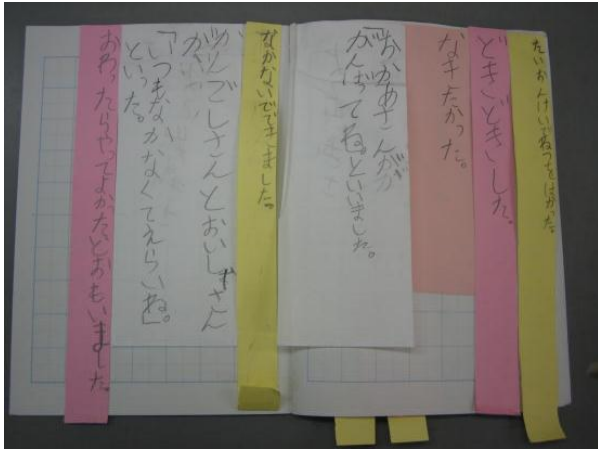
5 今後の課題

したことを詳しく思い出すには、一人一人が、学校や家での生活を振り返り、おもしろかったこと、楽しかったこと、うれしかったこと、驚いたことなど、最近の出来事の中でいちばん印象に残っていることを出させることが大事だと考えたが、一人一人違う題材では、一人一人の個別指導が多くなってしまって大変であった。時間中に全員を見てあげることができずに、計画よりも1時間多くかかってしまい、限られた時間で個に応じた指導をすることの難しさを感じた。

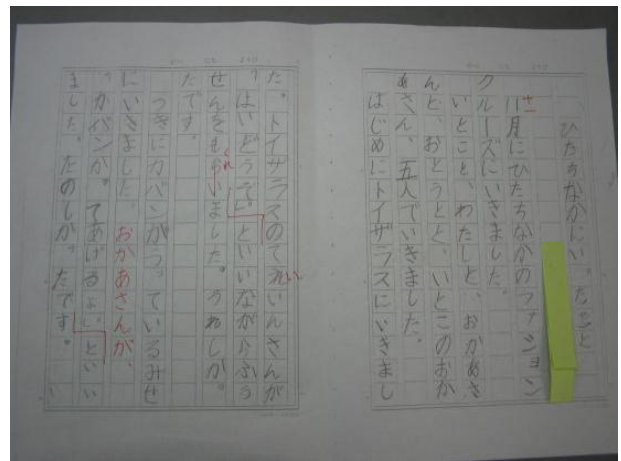
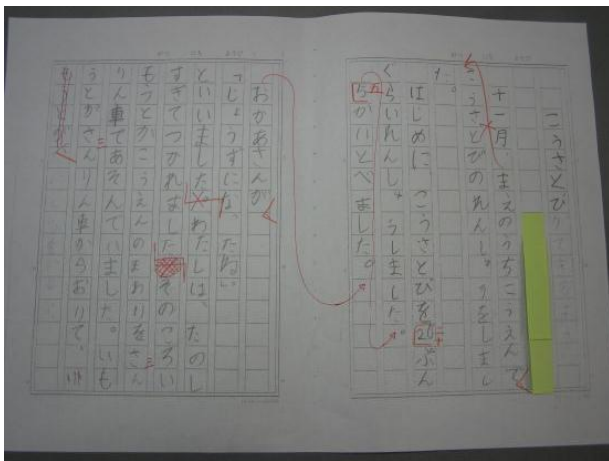
作文の学習だけでなく、教科書の音読や暗唱、読書、物語文や説明文の読解などを通して、良い文章に親しむことで表現力も伸びていくと思う。読書の時間にも、挿絵を見てページをめくるのではなく、短くて文が少なくても良い本をしっかりと読ませたい。思い出して話ができるように朝のスピーチも利用したい。これからも、いろいろな言語活動の中で表現力を伸ばす学習指導の工夫をしていきたい。

資料1 並べ替えたカード

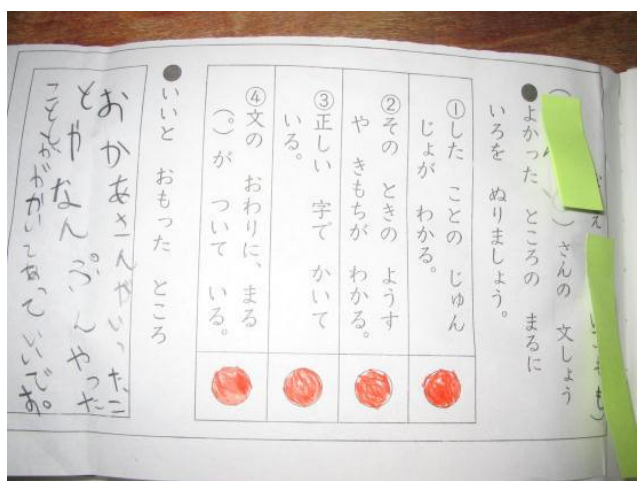
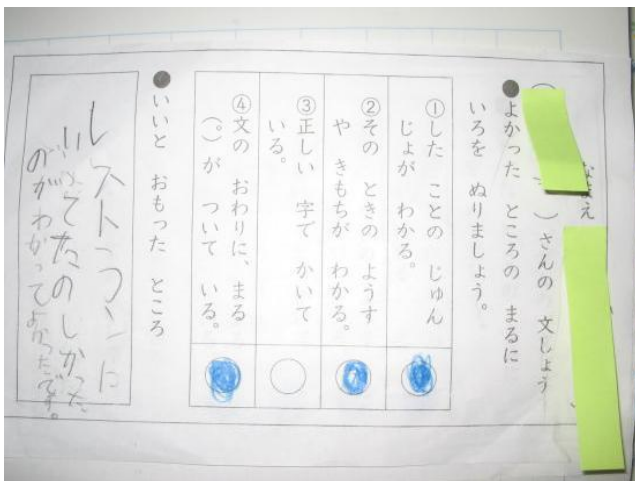




資料2 赤ペンで見直しをした作文



資料3 作文を友達と読み合い感想を伝え合うカード



資料4 授業の様子

